



# 洋上アルプス

No.314

2021年5月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 令和3年度を迎えるにあたって

日頃より、「洋上アルプス」をご覧いただきありがとうございます。

私も当保全センターの所長を拝命し、2年目を迎えることができました。

昨年度を振り返れば、4月16日に緊急事態宣言が全国に発令され、行楽シーズンを迎える屋久島も大きな影響を受けました。ゴールデンウィークの縄文杉パトロールに同行しましたが、連休中にも関わらず縄文杉への登山者がゼロという日もありました。

会議の延期やイベントの中止も余儀なくされ、屋久島町民をはじめ、関係者の方々にとっては苦労が絶えない一年であったこととお察し申し上げます。

さて、屋久島が世界自然遺産に登録されて28年となります。その間、世界遺産を取り巻く状況も変化してきました。大雨、台風等による自然災害、ヤクシカの生息数の増加、登山、観光客の増加等。

このような課題を踏まえ、屋久島の世界自然遺産の価値を将来にわたって維持するためには

「世界遺産地域管理計画」が重要となってきます。

屋久島世界遺産地域管理計画は前回の改定から令和4年で10年となり、計画の見直し時期となりました。今年度から、新たな知見を踏まえた世界遺産地域の管理について議論されることとなります。

また、今年度は「小杉谷閉山 50 周年記念式典」や「屋久島憲法 100 周年記念シンポジウム」等の開催が計画されており、屋久島の森林・林業にとっても大きな節目となる年度となります。

屋久島森林生態系保全センターでは令和3年度において「森林生態系の保全」「普及教育及び森林空間総合利用」

「関係機関との連携協力」等を着実に実施して参りますので、関係各位のご協力とご理解を賜りますようお願いいたします。



屋久島森林生態系保全センター  
所長 林 友和

## 当保全センター職員の紹介

4月から屋久島森林生態系保全センターに着任しました、森 晴可農林水産技官を紹介します。



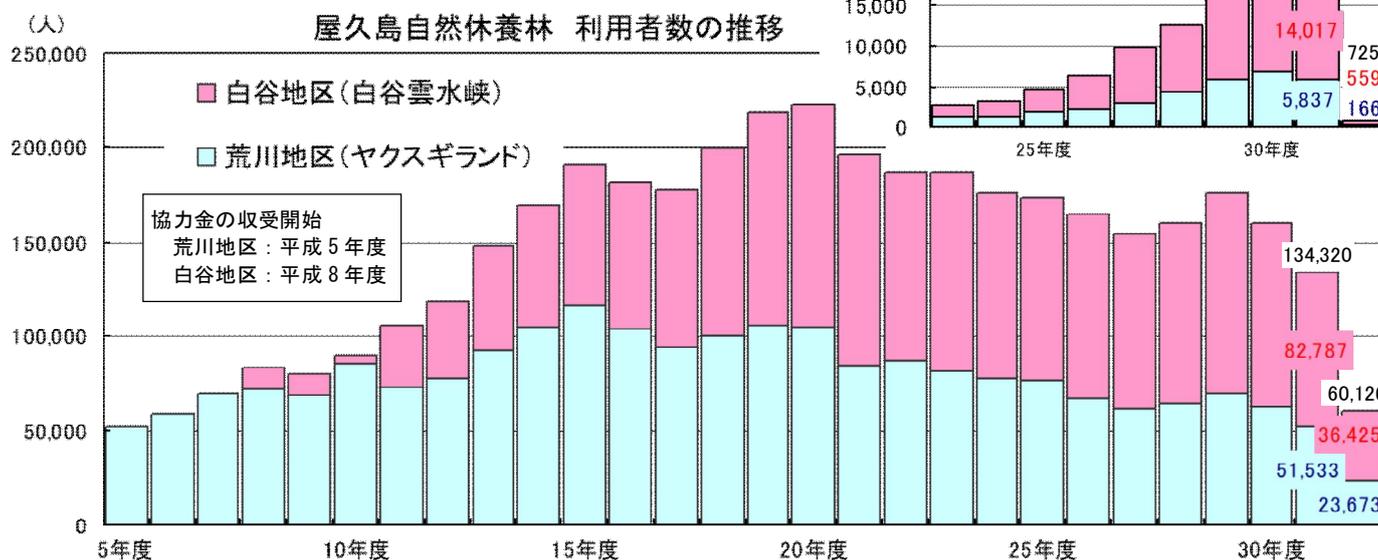
屋久島は数年前に一度訪れたことがあり、巨大な屋久杉や人を恐れないヤクシカとヤクザル、夕食にトビウオの丸揚げが出てくるなど、多くの驚きと発見がありました。そんな屋久島に住むことになり、せっかくの機会なので釣りや潜りといった、屋久島ならではの活動を始めてみたいです。

また、入庁3年目で本格的な山登りは不慣れな状態ですが、屋久島の様々な険しい山に挑戦し、登山の経験を積むとともに、体を鍛えて少しでも筋肉を付けたいと思っています。

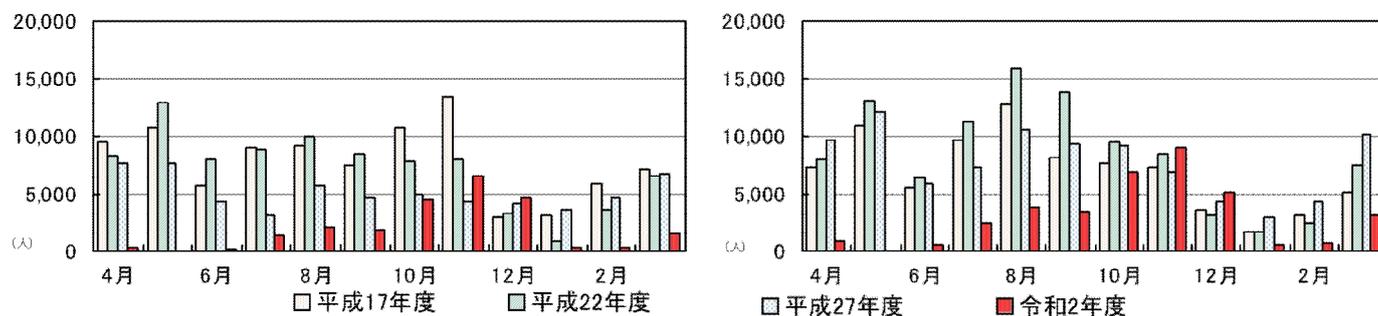
## 屋久島自然休養林 利用者数 令和2年度

屋久島自然休養林の年度別利用者数及び令和2年度の月別利用者数の推移をグラフで表しました。令和2年度の利用者数は60,126人で令和元年度より約74千人減少しました。これは、新型コロナウイルスの影響を受けたもので、外国人利用者も令和元年度より19,129人(96%)減少となりました。

※データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会



月別利用者数 左：荒川地区(ヤクスギランド) 右：白谷地区(白谷雲水峡)



## グリーン・サポート・スタッフ『GSS』の活動!!

屋久島世界自然遺産地域において入り込み者の増加や登山利用の集中化等に伴い、人による植生荒廃や森林機能の低下が見られることから、平成18年度より森林保護員(グリーンサポートスタッフ)による森林パトロールを実施しています。

これにより、貴重な価値ある自然を将来にわたって維持していくこととして、保護及びその周辺を含めた森林環境の適切な保全管理を推進しています。

具体的には、世界自然遺産地域を含む森林生態系保護地域等の森林パトロール及び軽微な歩道補修、植生や著名木等の衰退状況把握、登山者への安全・マナーに対する指導等を行っています。

令和3年度も引き続き主要な登山コースを重点的にパトロールを行うこととしていますのでご協力をお願いします。

なお、本年度より新たに小林GSSが一員となりましたのでご報告します。



4月から採用の小林GSS

## 屋久島登山の魅力について（第2回）

### —— 屋久島の花について ——

古賀 顕司（屋久島山岳ガイド連盟 代表）

ガイドを始めて 21 回目の春が訪れました。2 回目の今回は、屋久島の春から初夏の登山で見られる花についてお伝えします。

3 月中旬までは雪が降ることもある屋久島の山でも 4 月になると春めいてきます。4 月初めの屋久島の花の風景でお勧めはなんとといっても白谷雲水峡、太鼓岩からの山桜です。

まず宮之浦の町から車で白谷雲水峡の登山口まで移動していく途中、急斜面に育つ山桜とシイノキの新緑を楽しむことができます。

白谷雲水峡の楠川歩道を登っていくと、足元に山桜の花びら、ヤクザルが蜜を舐めたあとの椿の花、風で落ちたヤクシマオナガカエデの淡い緑色の花などを見ることが出来ます。沢沿いの岩の間には、小さな白い花が咲くサツマイナモリがかわいいです。ときおり花につくような匂いはヒサカキの花の香り。においで虫をおびき寄せ花粉を運ばせています。

登山口から 2 時間ほど歩くと辻峠、そこからさらに 20 分のぼると太鼓岩に着きます。屋久島の森は遠くの風景が見えないような鬱蒼とした森ですが、太鼓岩は目の前が開けていて安房川流域に広がる森を俯瞰で見ることが出来ます。3 月下旬から 4 月 1 週目にかけての山桜は、一度は見たい風景です。

山桜は森が壊れた後に育つ木なので森が成熟していくと他の木に入れ替わっていきます。いずれは見る事が出来なくなる山桜の風景に自然のはかなさと美しさを感じる事が出来ます。

季節は進み、5 月になると奥岳と呼ばれるエリアの花がお勧めです。淀川登山口から登っていくと、コケの間にチャボシライトソウ、コミヤマカタバミなどひかえめな花が咲いています。1 時間ほど歩くと淀川に着きます。淀川の橋からはサクラツツジ、ヒカゲツツジ、サツキなどのツツジの仲間を楽しむことができます。淀川から花之江河までの間はハイノキ、サクラツツジ、そしてヤクシマシャクナゲも段々多くなってきます。登山道沿いの足元にはものすごく小さなヤクシマムグラが咲いていて立ち止まりじっくり観察すると可愛い花です。

小花之江河と花之江河に着いたら、湿原の地面に注目。コケスミレ、ヤクシマコケリンドウをコケの間に見ることができます。屋久島の高山植物は小さいものが多いのですが、一説には、シカに食べられないために矮小化しているという説もあります。小さな屋久島らしい植物もいろんな歴史を経て現代に存在しているのかもしれませんが。

登山道をさらに進んで、投石平まで行くとヤクシマシャクナゲの群落があります。体力がある方はさらに宮之浦岳まで足をのぼしても良いと思います。

数年に一度当たり年があり、50 年に一度は山のシャクナゲが全部咲くような当たり年があるそうです。2013 年がまさに奥岳のシャクナゲが全部咲いているような年でした。生きているうちにもう一度みたい風景です。

次回は屋久島の沢について書きたいと思います。  
(つづく)



太鼓岩から山桜



2013年ヤクシマシャクナゲ

# 屋久島生態系モニタリング



## 屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度）

●標高0mプロット（海岸段丘下側と海岸岩場とに挟まれた照葉樹二次林の海岸林）

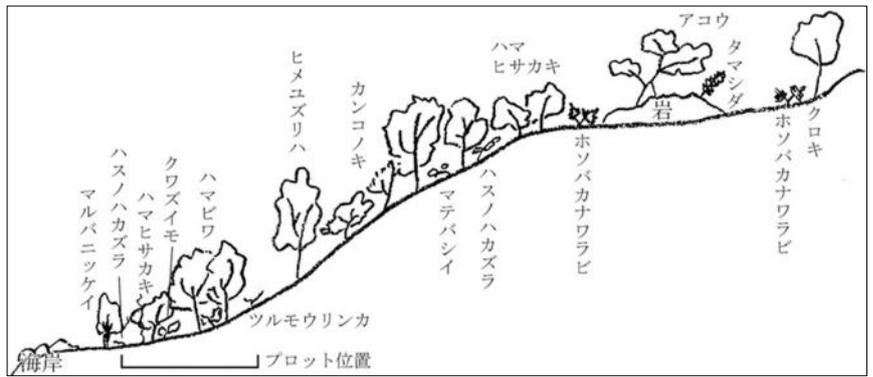
[植生概況] 高木層はマテバシイ、マルバニッケイ等の衰退が激しい。海岸付近は亜高木・低木層のハマヒサカキが純林化しつつある。クワズイモ等が群落を拡大してきた。

[優占種の変化]	階層区分	平成16年度	平成21年度	平成26年度	令和1年度
	高木層 (6.0m～13.0m)	ガジュマル	ガジュマル	ガジュマル	ガジュマル
	亜高木層 (4.0m～6.0m)	ハマヒサカキ	ハマヒサカキ	ハマヒサカキ	ハマヒサカキ
	低木層 (1.0m～4.0m)	ハマヒサカキ	ハマヒサカキ	ハマヒサカキ	ハマヒサカキ
	草本層 (1.0m未満)	ツルモウリンカ	ツルモウリンカ	ツルモウリンカ	クワズイモ

[階層毎の木本数] 平成16年度の低木の多くが平成21年になり、亜高木層に移行していたが、それ以降の低木層は概ね50本前後で推移していた。低木層のほとんどはハマヒサカキで、現在、亜高木層に到達間近のものが多い。クワズイモが林床を広く覆ってくると、草本層から低木層への参入は見込めず、数値以上に植生の単純化が懸念される。



標高0mプロット森林概況



標高0mプロットの群落横断面



## 自然休養林情報

### ヤクスギランド⑧ 天文の森コース その2

天文の森 210分コースは、標高1000m～1200m、延長約4.4km、所要時間約3時間30分のコースで、「雲霧林」とも「蘚苔林」とも呼ばれる幽玄な苔に包まれた森を鑑賞、満喫することができます。

このコースは、ほとんどが登山道でヤクスギランド入口から標高差は、約200m、アップダウンの多い登山道を約3時間歩くため、体力的にきついコースです。

今回は、第2回目。コース上で鑑賞できる「小田杉」から順にご紹介します。

小田杉は、推定樹齢2500年で素性も割合と良く、樹高も高い。樹冠は、苔でおおわれ、根元には、巨大なヤマグルマが着生しています。（屋久杉巨樹・著名木より）さらに5分ほど進むと天文の森に到着します。

この森は、屋久島内でも優良なヤクスギ林に設定されている5つの「試験林」の1つで「天文の森試験林」と呼ばれています。長期モニタリング中で、測定対象は胸高直径4cm以上のすべての樹木で、全個体に番号札をつけ、胸高直径と樹高が毎回測定・記録されています。

そこから5分ほど進むと推定樹齢2000年と言われている釈迦杉に到着します。帰りは来た道を蛇紋杉まで引き返し、150分コースを下ります。

